

令和4年度 横浜緑園高等学校 第1回学校運営協議会 記録

日時：令和4年6月4日（土）

場所：本校 会議室

司会 副校長

記録 学校運営・広報推進グループ

1 開会

藤沼教頭より本協議会の開会が告げられた。

2 新委員委嘱状交付

川又校長より新委員に委嘱状が交付された。

3 校長あいさつ

「自分が本校に着任してから初めての対面での協議会である。よろしくお願ひしたい。」

4 学校運営協議会委員及び学校職員の紹介

出席の協議会委員から挨拶があり、また田代副校長より本校職員の紹介があった。

5 会長・副会長の選出

会長に小泉正彦氏、副会長に川又校長が選出された。

6 新会長あいさつ

「難しい問題が多々あると思うが、ご協力をお願ひしたい。」

7 各部会の運営について

田代副校長より「学校評価」「地域連携」「教育交流(キャリア)」の3部会を設置し、それぞれ、

学校評価部会：部会長 川又校長、副部会長 相澤順氏

地域連携部会：部会長 田代副校長、副部会長 中村総括教諭

教育交流部会：部会長 藤沼教頭、副部会長 宮本教諭

でお願ひしたいとの提案があり了承された。

8 今年度の学校運営方針について

川又校長より、資料 p. 11 のグランドデザイン、p. 14 の今年度の目標、p. 15、16 の昨年度の評価、p. 13 のスクールポリシーについての説明があった。

9 各グループより

○研究・学習指導グループ（資料 p. 17）

・総合学科から普通科に変わっても男女比に変化がみられていない。

- ・1年次生に導入された「1人1台端末」の活用が軌道に乗り始めている。
- ・「主体的な学習」に取り組む態度を育成するため授業改善に日々努めている。10月に公開研究授業を行うのでぜひお越し願いたい。
- ・コロナによる分散登校、臨時休校中にオンライン授業を実施したことで学習を止めることなく続けることができた。
- ・他、資料のとおり。

○進路・キャリア支援グループ

- ・昨年度の実績の中で、4年制大学の進学が増え、短大、専門学校への進学が減った。
- ・指定校推薦については4年制大学進学者の7割から8割、専門学校進学者の3割がそれを占めている。(専門学校は7割がAO入試である。)
- ・基礎学力をつけさせたいので1、2年生に年2回外部模試を受けさせており、3年生には希望者模試を行っている。希望者模試は今年は11名が受験した。
- ・専門学校についてはAO入試が中心となっているので、学校選びをしっかりと行うように指導していく。
- ・4年制大学へ一般入試で進学する生徒が少ない。本人の希望がかなう方向へ指導していきたい。
- ・他、資料のとおり。

○生活支援グループ

- ・遅刻指導と個別のケースの支援を重点的に行っている旨、資料 p. 21 の「具体的な方策」に基づいて説明がなされた。

○生徒活動推進グループ

- ・生徒が主体的に話し合いや活動に参加することを重視して指導している旨、資料 p. 22 に基づいて説明がなされた。

○学校環境整備グループ

- ・施設を守り、生徒が安心して学習活動に取り組むことができるように業務を行っている旨、資料 p. 23 に基づいて説明がなされた。
- ・頭髪・服装指導などの生徒に対する声掛けを今後PTAにお願いしたいと考えている。

○学校運営・広報推進グループ

- ・コロナ禍の中、広報活動を効率化し、また式典をスリム化する工夫をしている旨、資料 p. 24 に基づいて説明された。

10 不祥事ゼロプログラムについて

田代副校長より資料 p. 25、26 についての説明があり、特に p. 25 の2の(2)(3)を問題視しているとの話があった。また川又校長より、定期テストでの事故防止として、答案用紙の色を変えたり、シュレッダーにかけることを禁止したりしているとの説明があった。

(川又校長より) 本校の現状について

本校を扱った学校紹介サイトの紹介を皮切りに、スタディーサポートの結果から本校の現状が示された。

「1年生の中に今後学力を伸ばせる生徒が相当数いて、2年生の中にも学力が伸びている生徒がいる。1年生は2年生と比べていろいろな面で不安を感じている生徒が少ない。全体的に勉強時間が少ないので、学習習慣をつけさせる必要がある。」

11 学校運営協議会委員からのご意見

○石塚委員

「PTAについては、コロナで活動ができなかったもので、何をやっていたのか思い出しながら活動している。ただ、活動について再考することができたので、省けるものは省いて、大事なものを残していこうと思う。環境グループから話があった生徒への声掛けなどは行っていきたい。生徒たちが無事に卒業に向けて歩んでいくことを望んでいる。」

○長谷川委員

「学習意欲が低くなるのは、自分が何になりたいかがはっきりしていないことも関係があると思う。進路指導に期待したいが、学校だけでは無理があるので、学校と家庭との協力関係が大事だ。遅刻が多いことが気になる。ヤングケアラーなどの社会問題もあるので、家庭にも原因があるのでは。原因、理由を明らかにして改善に努めるべきだと思う。」

○苺米委員

「『主体的な学習』がいちばん難しい問題ではないか。当初学習に意欲があっても、だんだんに緩みがちになっていく。その原因を考える必要があると思う。」

「ICTについてはこれからの時代に必要なのでぜひ進めてもらいたい。これはプリント教材の削減につながり、教員の仕事の軽減につながるのではないかな。そういった意味でオンライン化もぜひ進めてもらいたい。最近の教員志望者の減少や教員の不祥事は、多忙化も原因として考えられるので、仕事の軽減化を考えてもらいたい。」

○谷口委員

「遅刻や不登校の問題について関心がある。社会、家庭、友人関係、SNSなど様々な原因が考えられると思うが、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーを活用しつつ善処してもらいたい。またそういった活用が教員の負担軽減につながると思う。」

「広報グループの活動は、同じ学校関係者として大変参考になった。」

「不祥事やコンプライアンスを扱う委員会はあるのか。相談窓口等があるとよいと思う。」

(田代副校長より回答)

「不祥事防止会議があり、メンバーはこの協議会の本校職員である。研修等を検討しているが、それぞれのグループが独自のものを企画している。また県からの研修として、DVDを見たり設定されたテーマについて討論をしたりしている。」

○小泉会長

「総合学科から普通科に変わって、学校がどのように変わっていくかを見てきたが、志願者のレベルや保護者の学校に対する評価が上がってきているのではないかと感じている。そうであるなら学校が取り組んできていることがうまくいっているのだと思う。いろいろなデータを出せるようになってきているのもよいことだ。生徒が広報活動をしている姿を見たことがあるが、とても好感が持てて、このことも学校がよくなっていることの証左だと思う。」

「不祥事防止については自分たちの問題として考えていってもらいたい。」

12 その他

第2回学校運営協議会 10月1日（土） 文化祭（予定）

第3回学校運営協議会 3月2日（木） 卒業式（予定）

（コロナの関係で変更の可能性あり。）

13 閉会

藤沼教頭より本協議会の閉会が告げられた。